

# 教会月報

No.527 (2022年11月27日)  
【2022年12月号】  
日本キリスト教団埼玉和光教会  
〒351-0114 和光市本町 15-50

11月27日～12月24日 (アドベント 待降節)  
「天に栄光、地に平和」と祈りつつ  
主キリストの誕生を待ちわびる日々

## 主の御名を唱える (誇る)

岩河敏宏

詩編 20 編 8 節～9 節

8 戦車を誇る者もあり、馬を誇る者もあるが  
我らは、我らの神、主の御名を唱える。  
9 彼らは力を失って倒れるが  
我らは力に満ちて立ち上がる。

教会暦ではアドベントから新しい1年が始まり、今年11月27日(日)となります。マタイによる福音書やルカによる福音書が記すイエスの誕生に関する記述は、夜(暗闇)の只中で光(星/主の栄光)によって御子イエス(光・真理)の誕生が知らされる出来事を核としています。そこで、イエスの誕生(神の真理の光が、闇の世界に輝き出る。神の救いが実現する。)が示す重大な主題に対して、心の備えをする、という意味から日本語では“待降節”“降臨節”と呼びます。ちなみにアドベント(接近する)は、イエスの誕生を“神の救いが近づく。神ご自身が私たちに接近して下さる。”と解して付されたラテン語です。

私たちがアドベントを迎えるこの時期に、聖書が示そうとしているイエス誕生の真意について黙想し求めます。創造主なる神が、あらゆる命が調和するように、仕え(耕す)守るようにエデンの園を託したのが人です(創世記2章15節)。神が人に与えた使命

を果たせず、自身が犯した過ちを他者に転嫁する“罪”に陥った結果(同3章)、調和ではなく分断を招きません(同4章)。地上に悪が満ちたことに心を痛めた神は、総てを再生しようとしませんが、人や被造物への慈しみから神自身が考えを撤回し、祝福の徴として虹を現します(同6章～9章)。聖書が最初に記した神と人との関係は、常に神の側から歩み寄り調和へと導く神の描写です。

神の御心に聴くことから離れた人は、神無しに判断することで混迷を極めます。対して聖書は、神の真意を体現する御子の誕生を、幾度も記しています。その代表例は、『ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた。ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。権威が彼の肩にある。その名は、「驚くべき指導者、力ある神/永遠の父、平和の君」と唱えられる。』(イザヤ書9章5節)で、この預言と気脈を通じるのが冒頭の聖句です。神から離れた人は力(戦車=武力、馬=経済力)を誇りますが、神の真意を知る者(イエス)は主の御名を唱え、その者は「平和の君」と称されます。

暴力が横行する世だからこそ、私たちは主の御名を唱え(誇り)、神が慈しんでおられる命を大切にしたい。アドベントを過ごしたい。